

平成 26 年度 広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告

はじめに

本報告は、平成 26 年 12 月に実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の結果を集約・分析したものである。

広島大学には 1000 人以上の留学生が在籍しており、彼らが直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは毎月連絡会議を開催し、また各セメスターに一度は全学の留学生支援担当者会議を開催して、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される対象は多岐にわたり、効果的効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、今年度も留学生に対する支援調査を実施することとなった。

本調査の内容および構成は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成され、調査票は国際センター国際交流グループより全留学生に配布された。

平成 26 年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

中矢 礼美	国際センター国際教育部門	准教授
横山 美栄子	ハラスメント相談室	教授
北仲 千里	ハラスメント相談室	准教授
岡本 百合	保健管理センター	准教授
小島 奈々恵	保健管理センター	研究員
田中 孝憲	キャリア支援グループ	主査
大山 文望	キャリア支援グループ	
宮 秀貴	学生生活支援グループ	主査
梅下 健一郎	国際センター国際交流部門	副グループリーダー
桑原 晶子	国際センター国際交流部門	

I. アンケートの調査方法と内容

アンケート調査票は広島大学に在籍する全留学生 1,157 名を対象とし、所属部局より直接あるいは指導教員を経由して配布した。回答は、学内便にて回収を行い、回収数は 608 であった。回収率は 53%と、2003 年以降の調査の中で最も高い比率となった。

アンケート調査紙は日本語と英語を併記した。

アンケートは昨年とほぼ同じ項目を用いている。内容は 5 つに分かれており、1)一般的な質問、2)コミュニケーション言語および学習について、3)広島大学と指導教員について、4)留学生支援について、5)留学生による生活・修学に対する満足度について、である。

回答は、複数選択式、5 点法のリカートスケール方式など、選択式を採用した。ただし、より具体的な意見を汲み取るために自由記述欄も設けた。

回答者は、質問によって異なっていること、一部の質問に回答していないなどの無回答などもあるために、質問によって全回答者数に違いがある。

II. 統計分析の方法について

データはすべて統計的に処理されており、ここに掲載した検定結果は分散分析の結果である。分散分析は理系と文系の研究科に所属する学生の間での違いとして行っている。尚、ここでは留学生の自己判断により理系文系を区別している。

III. アンケート調査結果の分析

1. 一般的な質問

1.1 性別（有効回答 606）

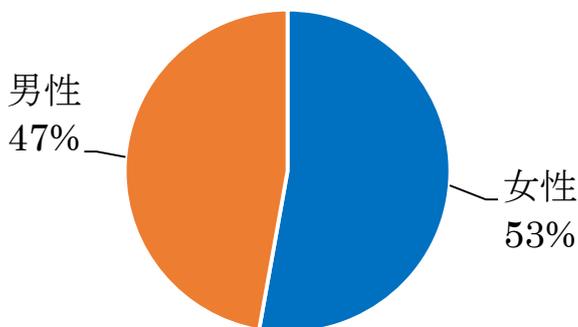


図1.1 性別

1.2 年齢（有効回答 607）

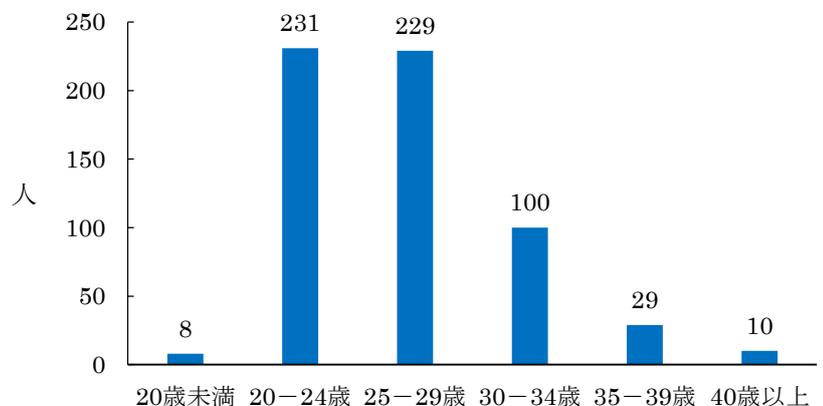


図1.2 年齢

1.3 出身国・地域（有効回答 604）

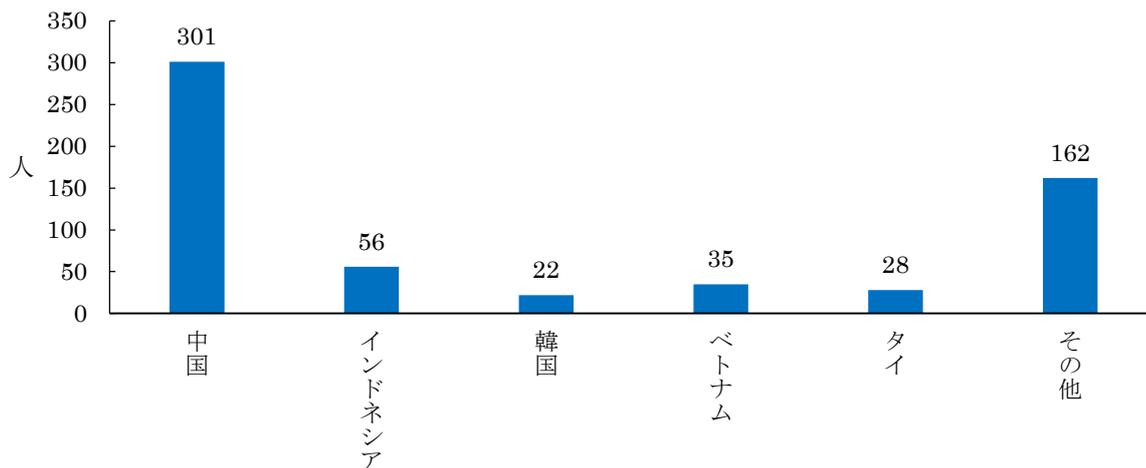


図1.3 出身国・地域

1.4 学籍（有効回答 606）

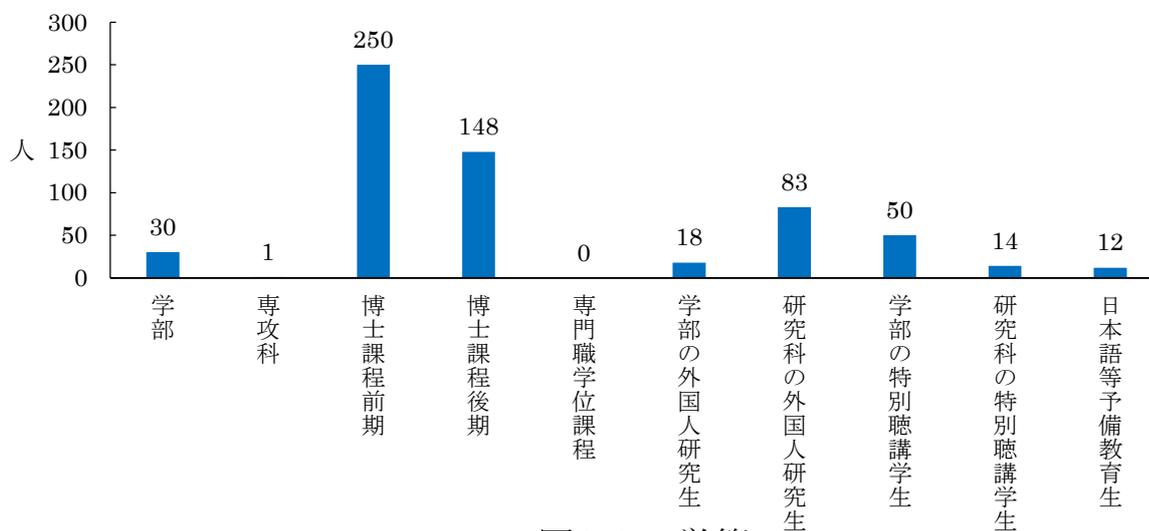


図1.4 学籍

1.5 所属（有効回答 607）

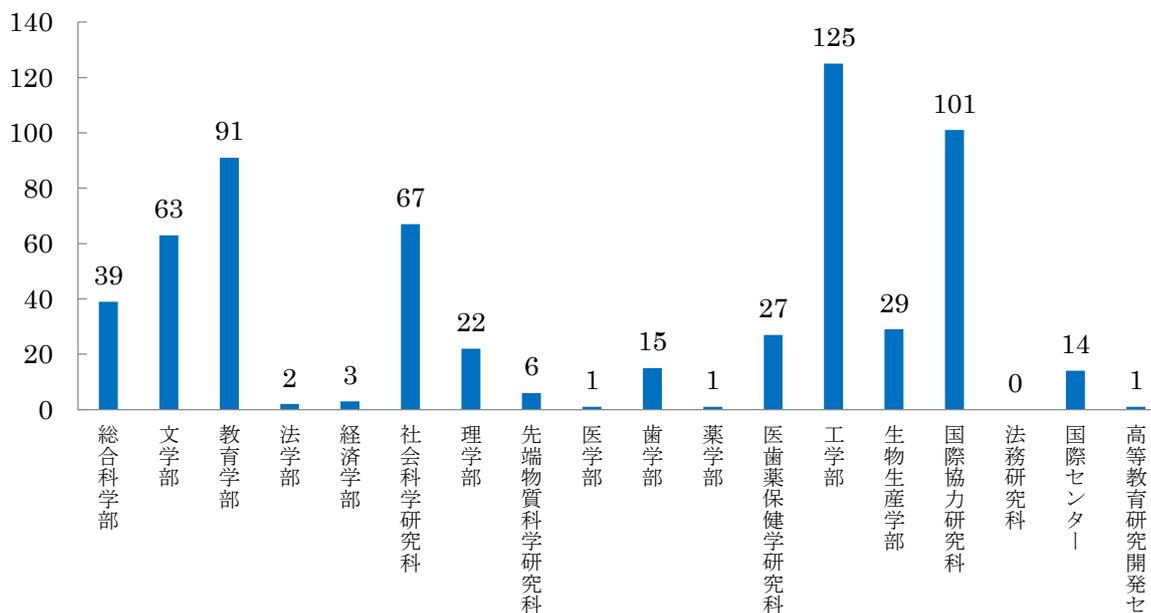


図1.5 所属

1.6 私費・国費（有効回答 593）

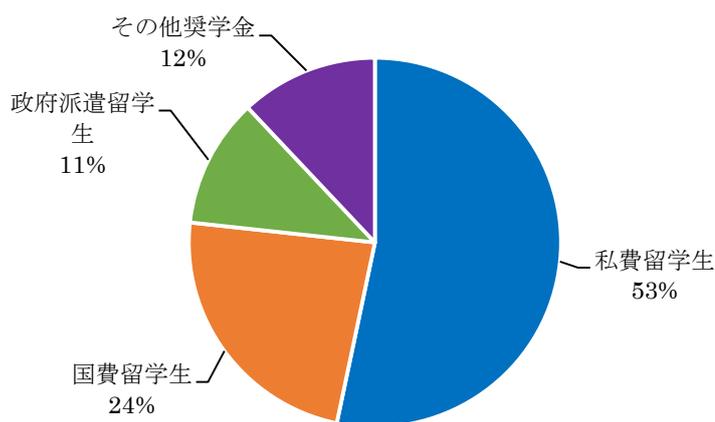


図1.6 私費・国費

1.7 専門（有効回答 593）

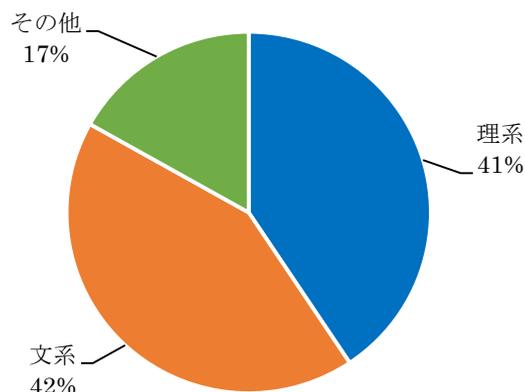


図1.7 専門

1.8 広島大学での在籍年数（有効回答 606）

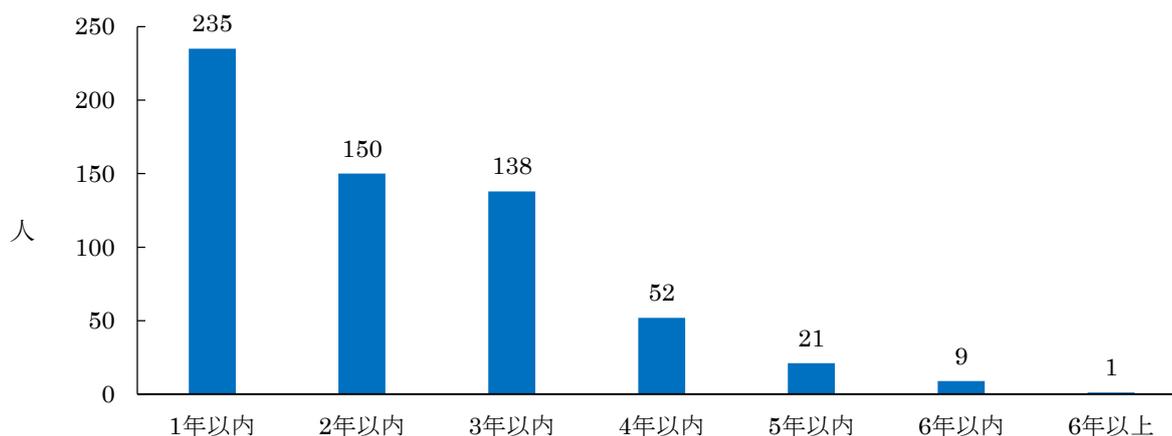


図1.8 広島大学での在籍年数

2. コミュニケーション言語と学習について

2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？

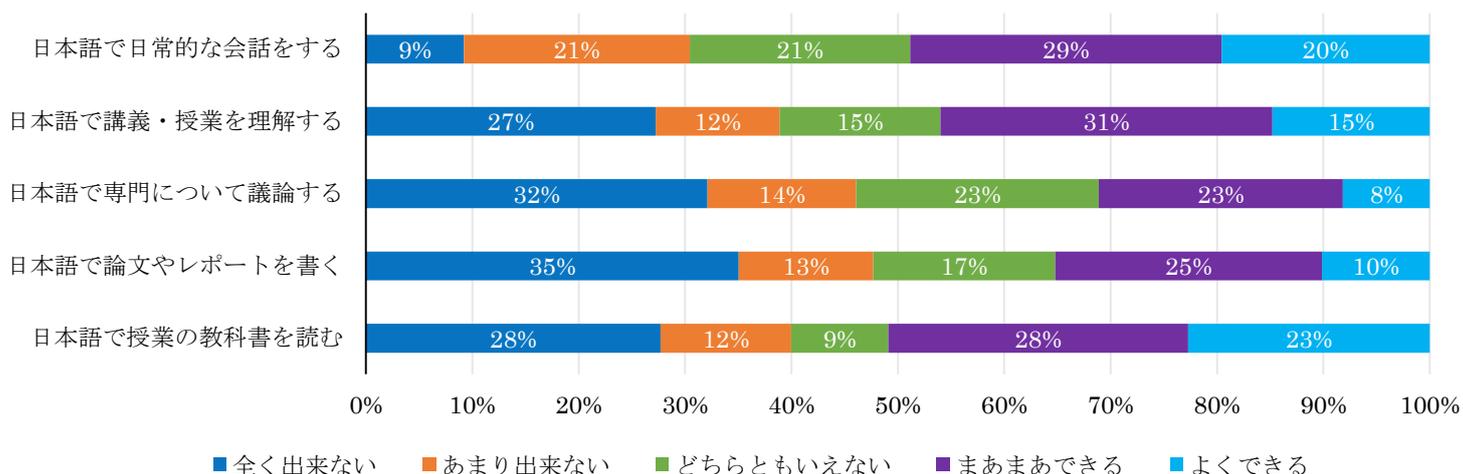


図2.1 - 1 日本語能力

2.2 あなたの英語能力はどのくらいですか？

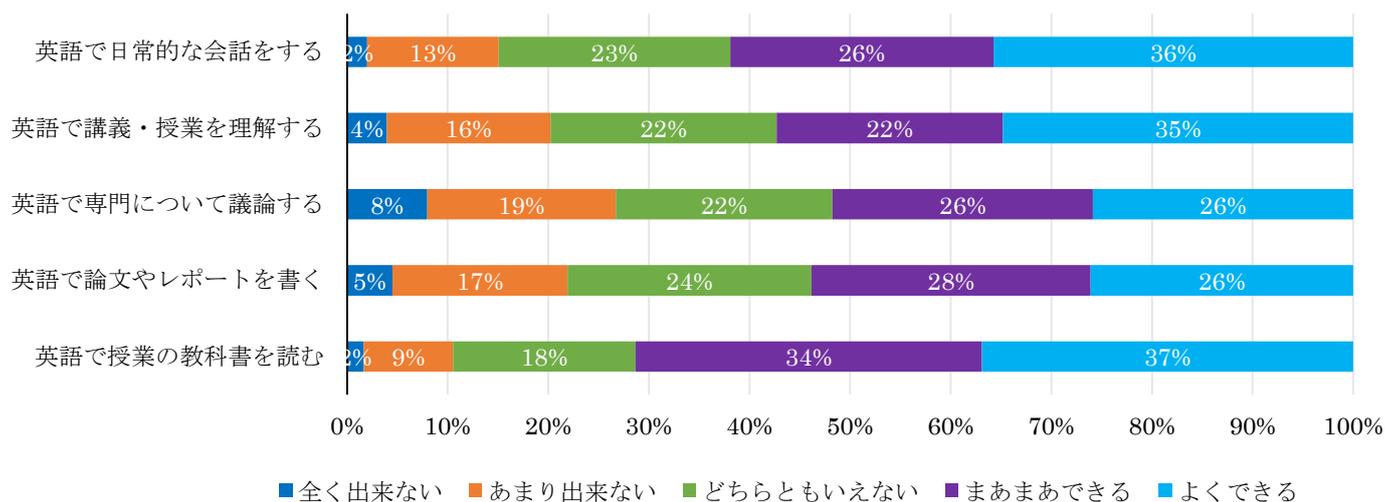


図2.2 - 1 英語能力

日本語能力および英語能力について、それぞれ項目ごとの平均得点の専門による違いを見るために専門 2(文系・理系)×項目 5 の 2 要因分散分析を行った結果、それぞれ専門×項目の交互作用が有意であった。項目ごとに専門の単純主効果の検定を行ったところ、すべての項目について理系・文系による有意な差が認められた。日本語能力については、理系の学生に比べて文系の学生がすべての側面において高い日本語能力を持つという結果が得られた。英語能力については、文系の学生に比べて理系の学生がすべての側面において高い英語能力を持つという結果が得られた。

表1. 日本語能力, 英語能力における分散分析表

	df (要因)	df (誤差)	F値	p値	η_p^2	多重比較
日本語能力						
専門	1	485	243.5	.00 **	.334	文系 > 理系
項目	3.5	1680.5	138.0	.00 **	.222	e > a > d > b > c
専門×項目	3.5	1680.5	31.7	.00 **	.061	
英語能力						
専門	1	486	176.4	.00 **	.266	理系 > 文系
項目	3.6	1754.8	110.9	.00 **	.186	a > e > d > b > c
専門×項目	3.6	1754.8	18.9	.00 **	.038	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

表2. 項目ごとの専門の単純主効果

	差得点(標準誤差) (理系－文系)	df	t値	調整p値	d[95%CI]
日本語能力					
授業の教科書を読む	-1.8 (0.1)	2425	-16.9	.000 **	-3.4 [-3.7,-3.2]
論文やレポートを書く	-1.7 (0.1)	2425	-16.0	.000 **	-3.2 [-3.5,-3.0]
専門について議論する	-1.4 (0.1)	2425	-13.2	.000 **	-2.7 [-3.0,-2.4]
講義・授業を理解する	-1.6 (0.1)	2425	-15.0	.000 **	-3.1 [-3.3,-2.8]
日常的な会話	-1.1 (0.1)	2425	-10.6	.000 **	-2.2 [-2.4,-1.9]
英語能力					
授業の教科書を読む	0.9 (0.1)	2430	9.3	.000 **	1.9 [1.7, 2.1]
論文やレポートを書く	1.3 (0.1)	2430	13.8	.000 **	2.8 [2.6, 3.0]
専門について議論する	1.3 (0.1)	2430	14.3	.000 **	2.9 [2.6, 3.2]
講義・授業を理解する	1.1 (0.1)	2430	11.9	.000 **	2.4 [2.2, 2.6]
日常的な会話	1.0 (0.1)	2430	10.7	.000 **	2.2 [2.0, 2.4]

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

※エラーバーは標準誤差

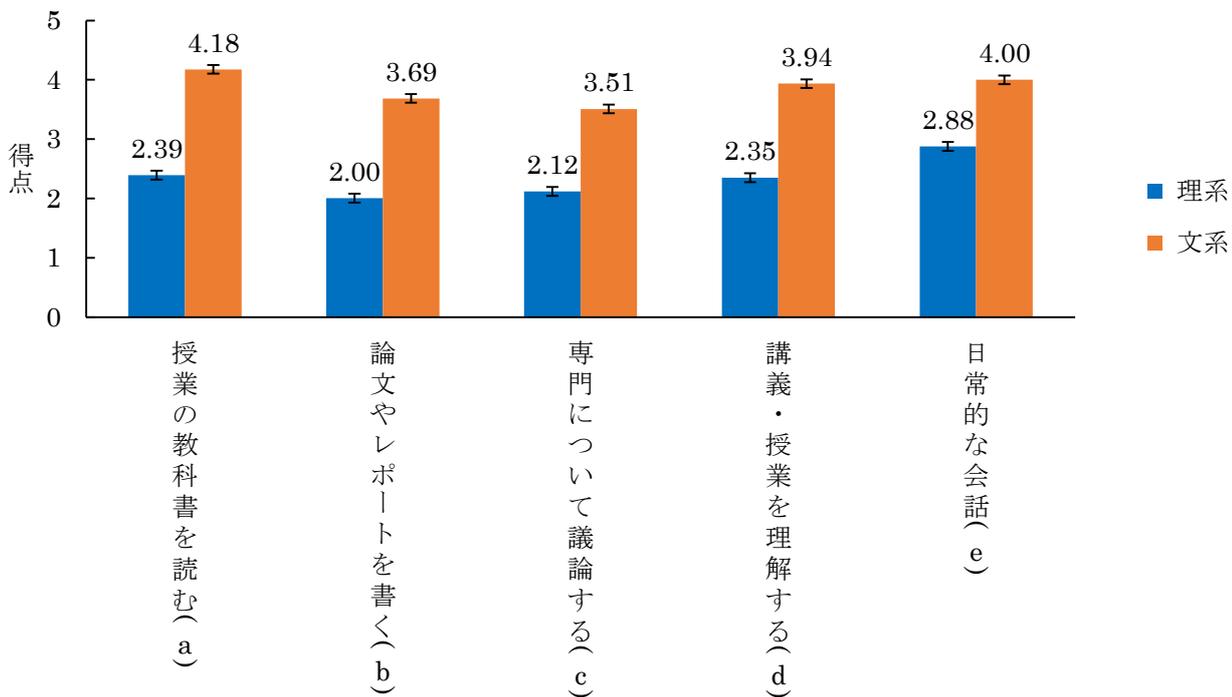


図2.1 - 2 日本語能力についての分散分析結果

※エラーバーは標準誤差

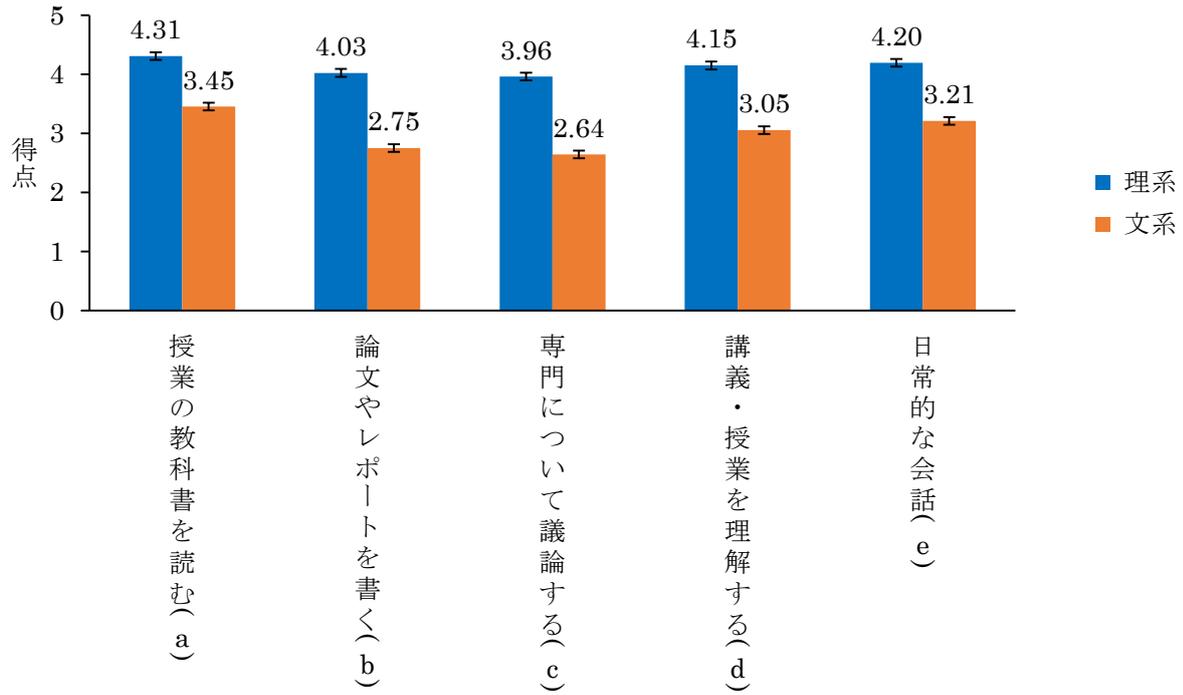


図2.2 - 2 英語能力についての分散分析結果

2.3 あなたは、論文の読み書きでおもにどの言語を使いますか？(回答数 592)

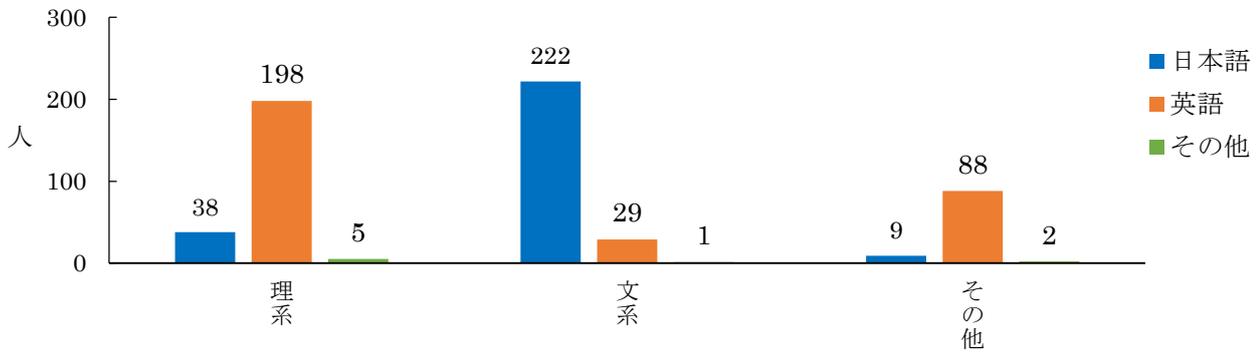


図2.3 論文の読み書き

2.4 あなたは、指導教員との会話でおもにどの言語を使いますか？(回答数 588)

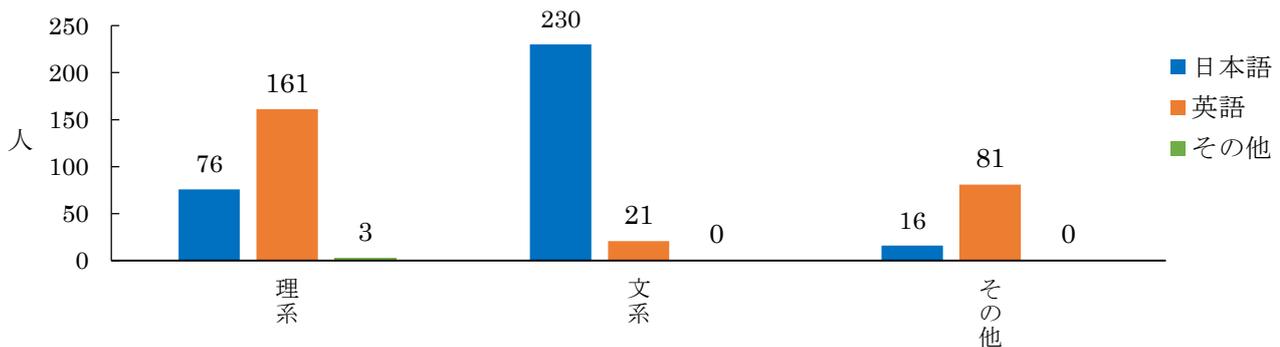


図2.4 指導教員との会話

2.5 あなたは、研究室の人たちとの会話でおもにどの言語を使いますか？(回答数 582)

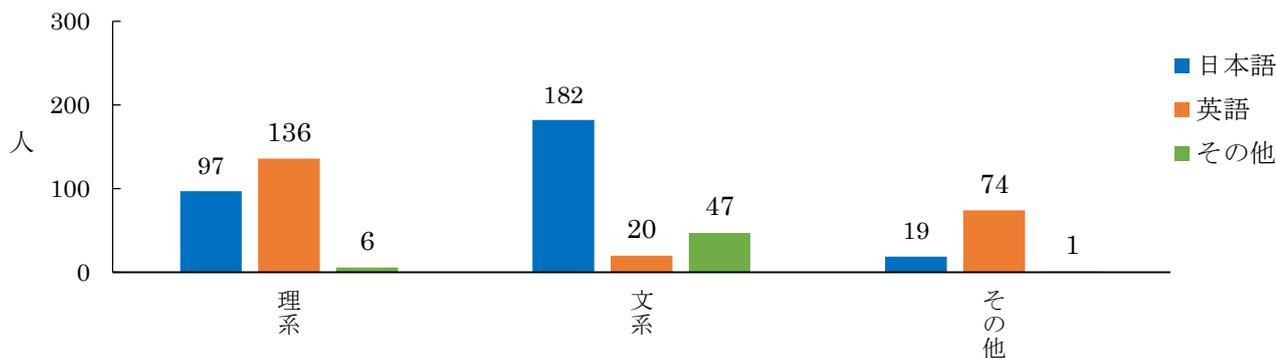


図2.5 研究室の人との会話

2.3～2.5 に示したように、理系の学生の方は文系の学生よりも論文の読み書きは圧倒的に英語を使っているが、指導教員および研究室の人たちとの会話では論文の読み書きの場合に比べて日本語を使う人数が増えている。反対に文系の学生の方は理系の学生よりも、論文の読み書き、指導教員および研究室の人たちとの会話で圧倒的に日本語を使っている。「研究室の人との会話」において「その他」の言語と回答している人が多いのは、同国出身者との会話によると考えられる。

2.6 あなたが広島大学で今まで参加した国際センターの日本語コースを教えてください。

(複数回答可)

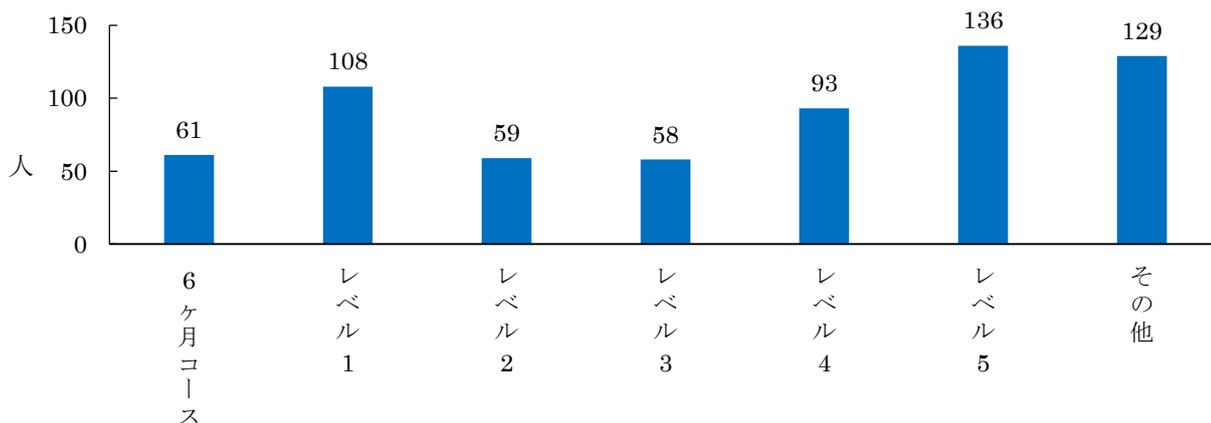


図2.6 受講した国際センター日本語クラス

2.7 あなたの日本語の勉強についてどの意見が当てはまりますか？(複数回答可)

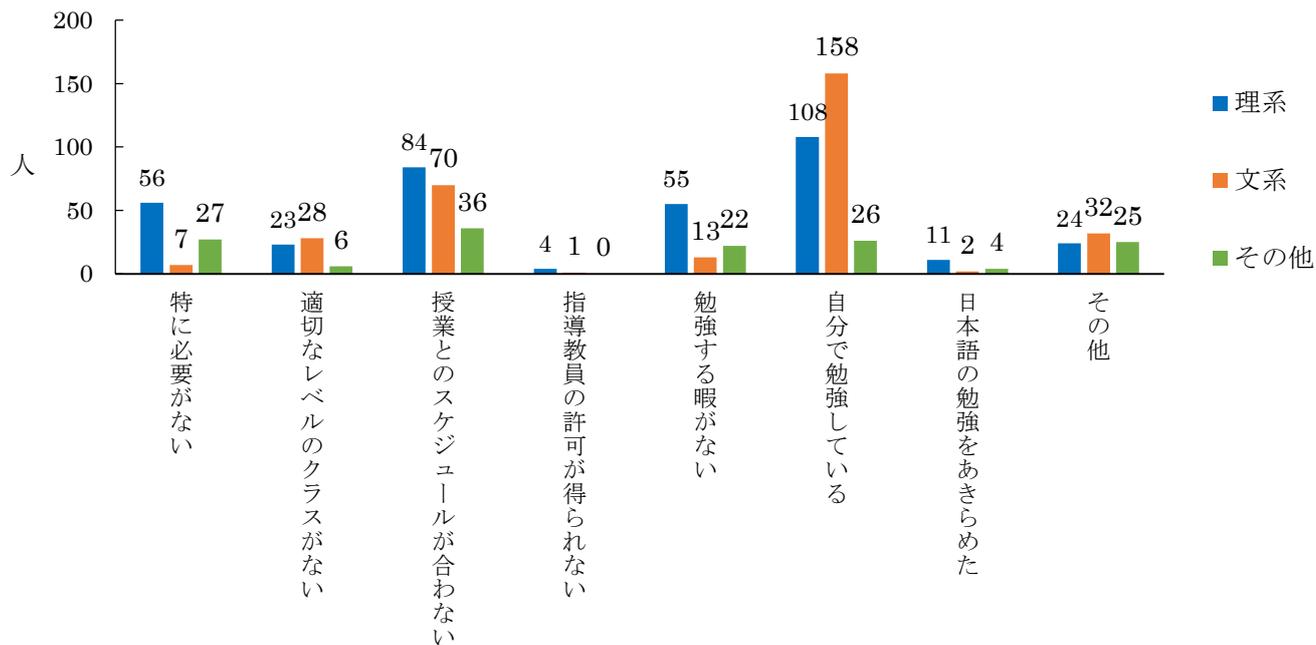


図2.7 日本語の勉強についての意見

図 2.7 より、「自分で勉強している」という学生が多いが(全体の約 51%)、理系の学生においては文系の学生よりもやや少なめである。「特に必要がない」と感じるのが理系の学生の場合が多いためだと考えられる。「授業とのスケジュールが合わない」学生が 190 名(全体の約 33%)、必要性を感じながらも「時間がない」学生が 90 名(全体の約 16%)存在し、中でも理系の学生において多い。「その他」の意見の中には、「もっと日本語能力を向上させたい」、「時間がない」、「日本人と会話したい。またそのような授業がほしい」というような意見があった。日本語能力が低いにもかかわらず、研究室や指導教員との会話は日本語を使用していたり、生活のための必要性からも、日本語・日本文化学習機会の保障がさらに必要であることが示唆される。

3. 広島大学と指導教員について

3.1 あなたは留学フェアに参加したことがありますか？

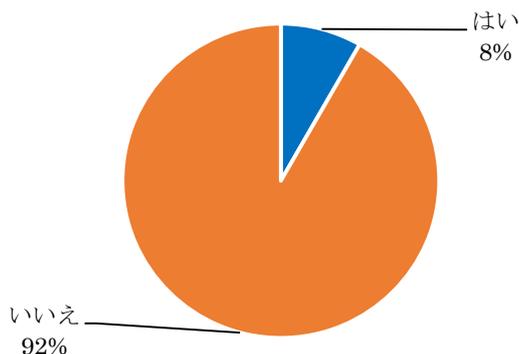


図3.1 留学フェアに参加したことがあるか

3.2 上記で「はい」と答えた人は、どこの都市、会場で参加しましたか？

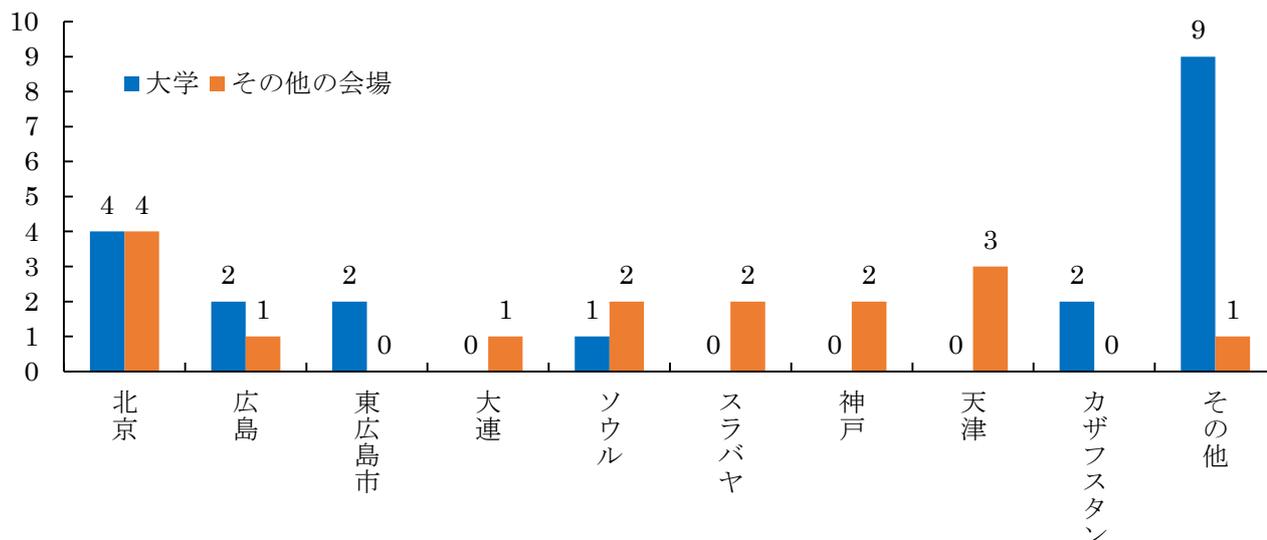


図3.2 留学フェアに参加した都市と会場

3.3 あなたは、どんな情報をもとに広島大学を選びましたか？（複数回答可）

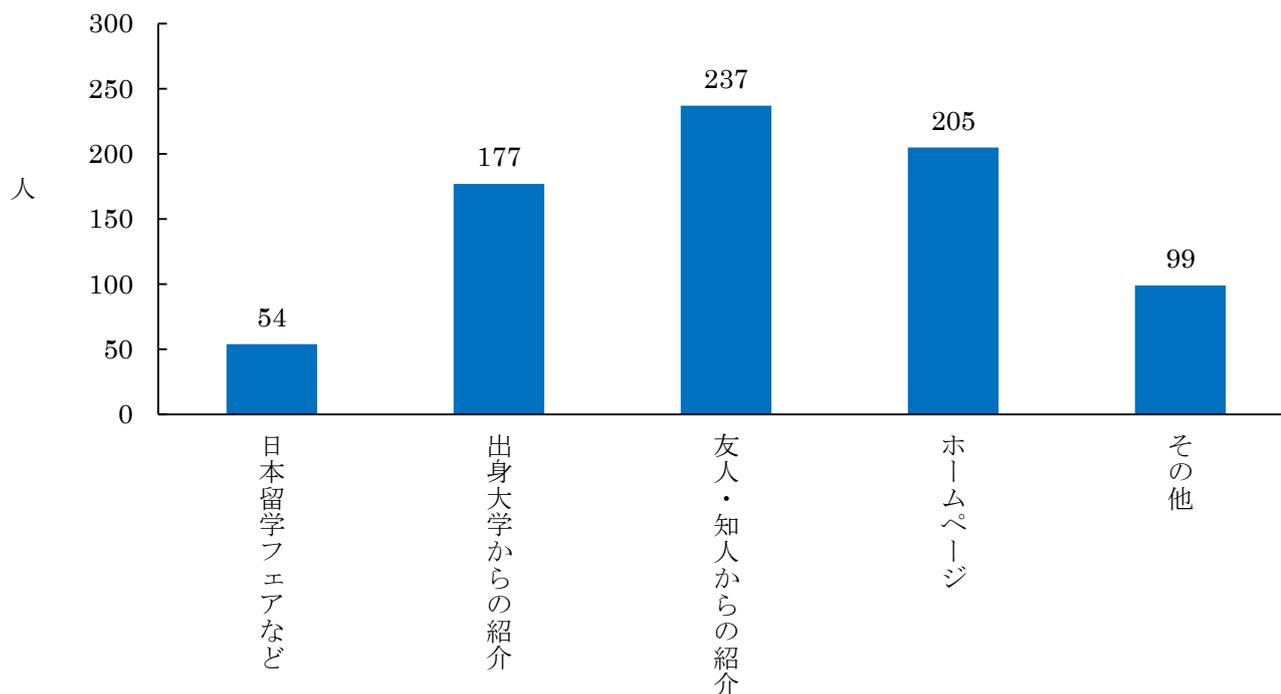


図3.3 どのような情報をもとに広島大学を選んだか

図 3.1 より、留学フェアに参加したことのある学生は 8%、参加したことのない学生は 92% であり、ほとんどの学生が留学フェアに参加したことのないことが分かった。図 3.2 より留学フェアに参加した地域は北京が比較的多いが、これは中国人留学生が多いためと考えられる。広島での参加も一定数存在する。

図 3.3 より友人・知人からの紹介、および出身大学からの紹介など、他からの紹介によって

広島大学を選んだ学生が最も多い。一方でホームページの情報をもとに広島大学を選んだ学生も多く、web上で公開されている情報が留学生にとって重要な情報源の一つであることが示唆される。

3.4 あなたは、指導教員のことをどのようにして知りましたか？(複数回答可)

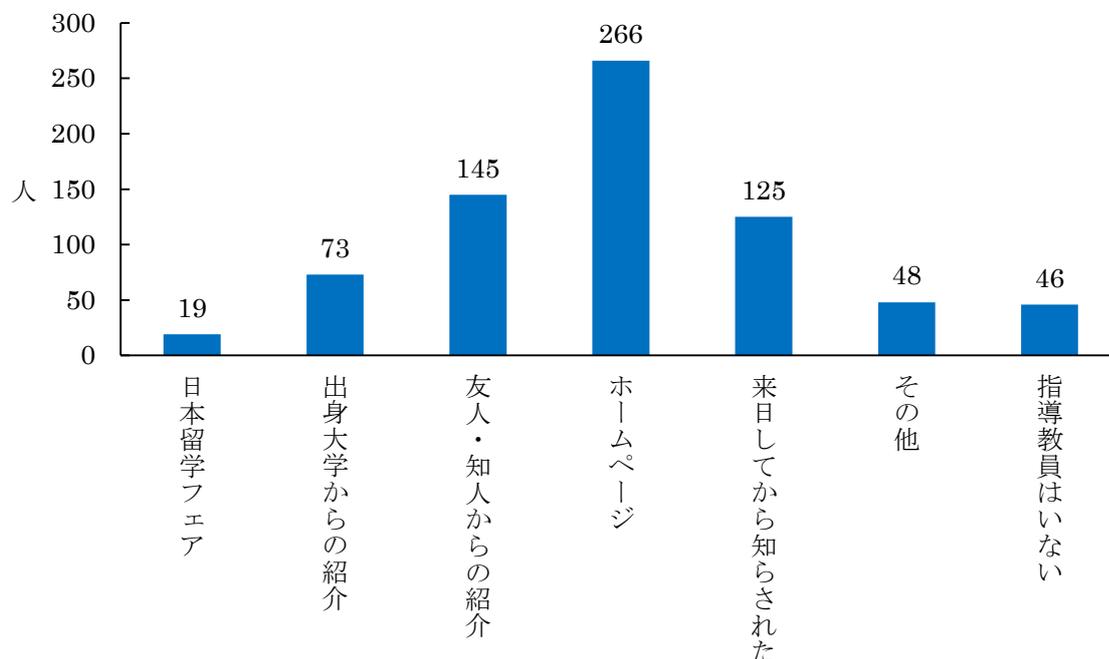


図3.4 指導教員をどのようにして知ったか

3.5 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？(複数回答可)

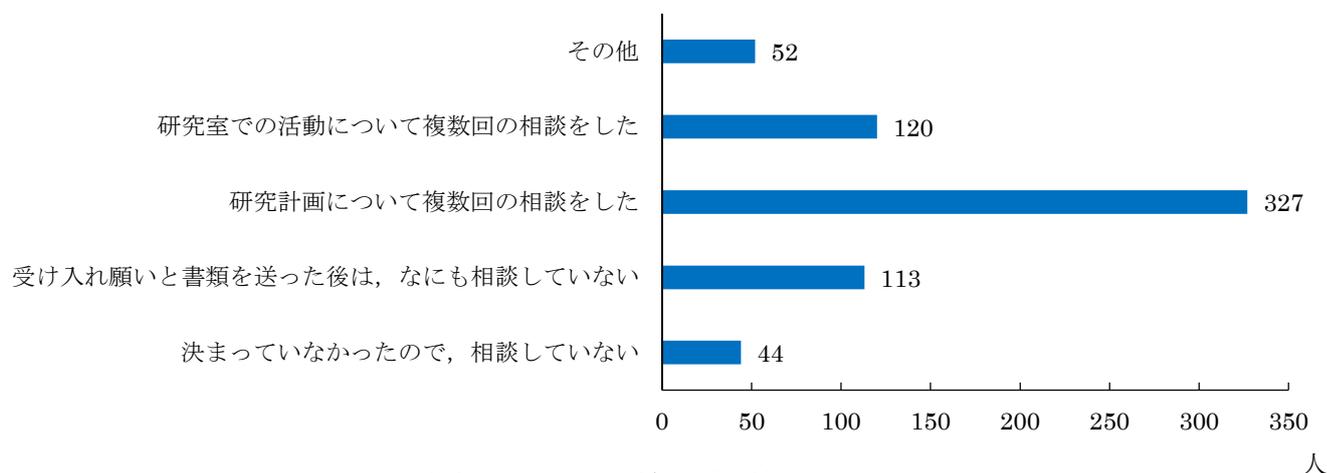


図3.5 来日前の相談

図 3.5 では、指導教員と来日前に相談をする必要がないと考えられる学部生の回答は除いている。「決まっていなかったもので、相談していない」という回答が全体で 44 名であり、昨年度と比較してかなり減少したと言える。一方で「受け入れ願いと書類を送った後は、何も相談していない」という回答は依然として 113 名存在する。

研究室および指導教員とのミスマッチは、留学生にとって最も大きな問題であり、予防のた

めには事前相談が不可欠である。受け入れ願いと研究計画書などの提出を受け入れられた時点で留学生は、指導教員が全面的に自分の研究計画を受け入れてくれていると思う一方で、指導教員側は「来てからの話し」を考えていることもある。昨年度の報告にもあるように、相互不理解が入学時から始まっている可能性が依然として高い。受け入れ前の複数回の相談(確認)を実施すべきであることを今後強調していかなければならない。

3.6 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？(複数回答可)

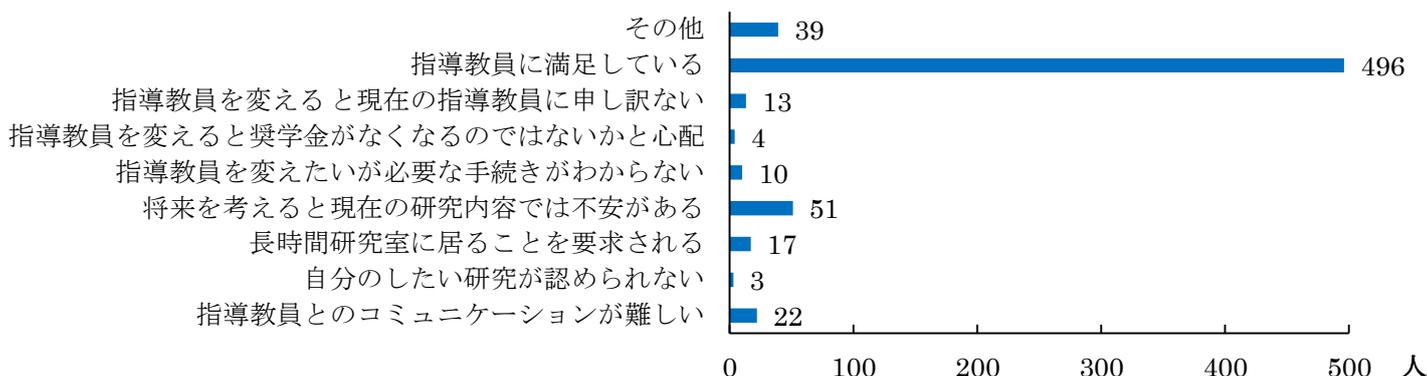


図3.6 指導教員との関係

概ね指導教員に満足しているようであるが、「将来を考えると現在の研究内容では不安がある」という回答者が 51 人と多い。指導教員を変えたいが「申し訳ない」、「奨学金が無くなるのではないかと心配」、「必要な手続きが分からない」という留学生も存在している。深刻な問題である場合もあるため、各相談窓口での対応が求められる。

4. 学習支援について

4.1 学生生活の中で困っていることがありますか？(複数回答可)

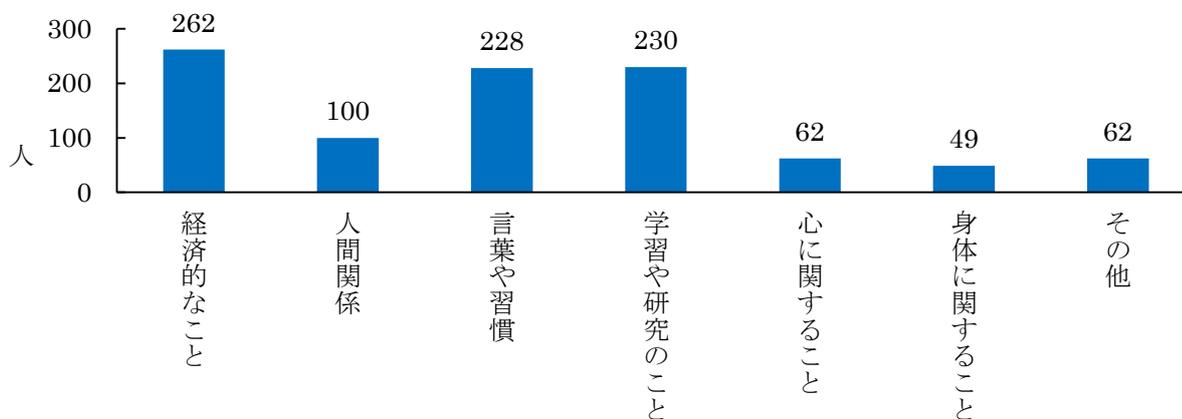


図4.1 困っていること

「経済的なこと」が最も多く、262名が悩んでいる。次いで「学習や研究のこと」が 230名、「言葉や習慣」が 228名と多かった。これらは質問紙最後の自由記述欄でも多く述べられていたため、参照して頂きたい。

4.2 困ったことがあるときにはおもに誰に相談しますか？(複数回答可)

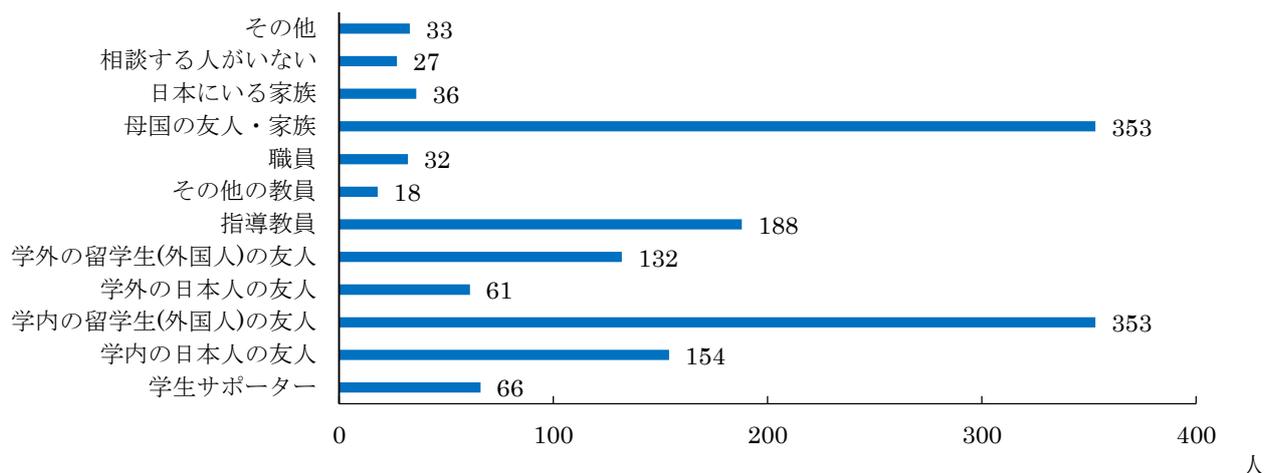


図4.2 相談する相手

相談する相手としては「学内の留学生の友人」、「母国の友人・家族」が非常に多い。次いで「指導教員」が188名、「学内の日本人の友人」が154名、「学外の留学生の友人」が132名と多かった。学内の日本人の友人よりも指導教員の方が多く、指導教員のサポートの重要性がうかがわれる。

4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？相談したことがありますか？

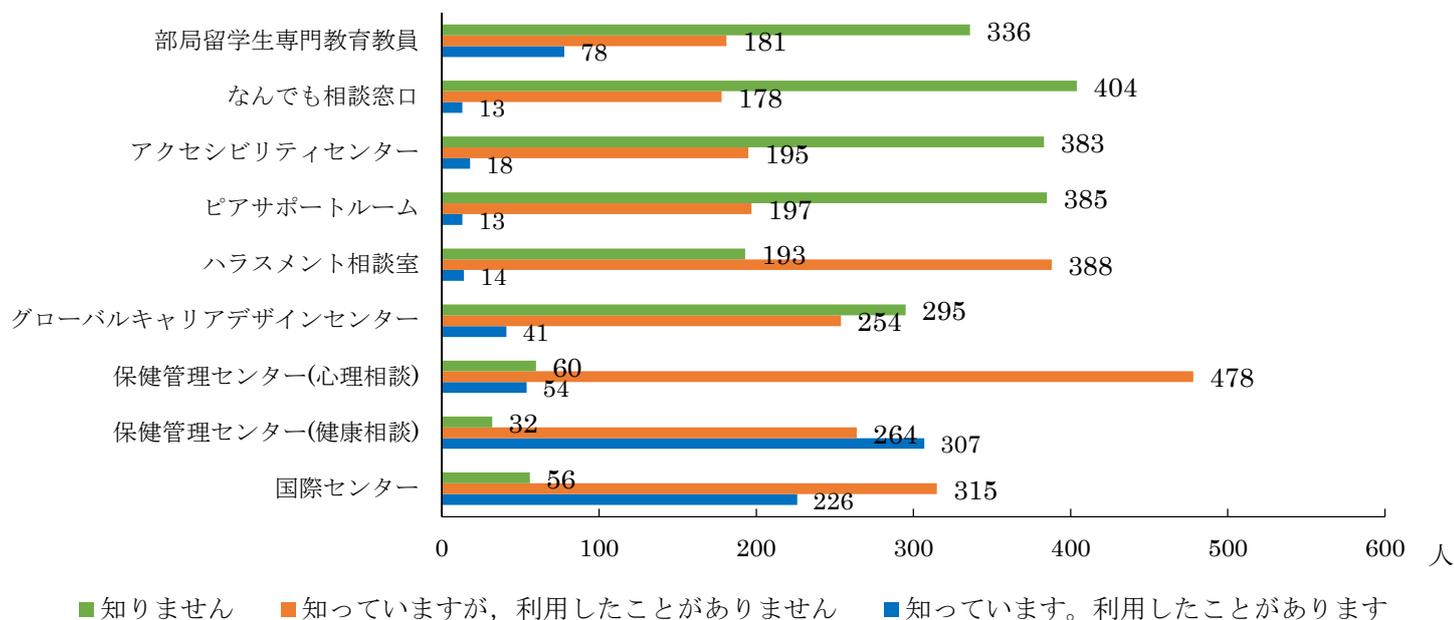


図4.3 窓口認知および利用

ピアサポートルーム、アクセシビリティセンター、なんでも相談窓口、部局留学生専門教育教員の認知度が非常に低い。部局留学生専門教育教員については、配置されていない部局があることも影響している。有意義な留学生生活、問題の予防や早期解決のためには、留学生支援

窓口の周知徹底を図る必要がある。

4.4 下記の窓口を利用したことがある方にお尋ねします。下記の窓口での支援に満足されましたか？

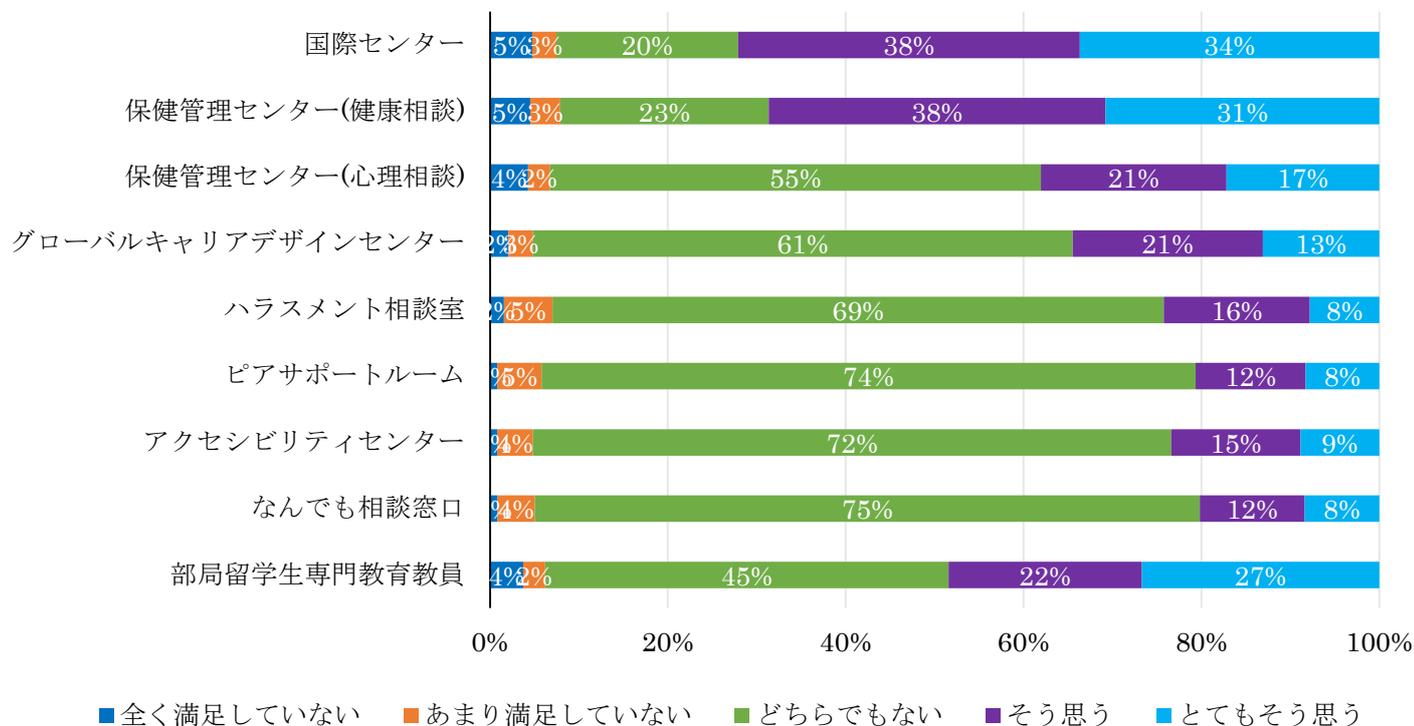


図4.4 窓口の満足度

4.5 保健管理センターで、留学生のためのカウンセリング(英語と日本語で対応)を行っていることを知っていますか？

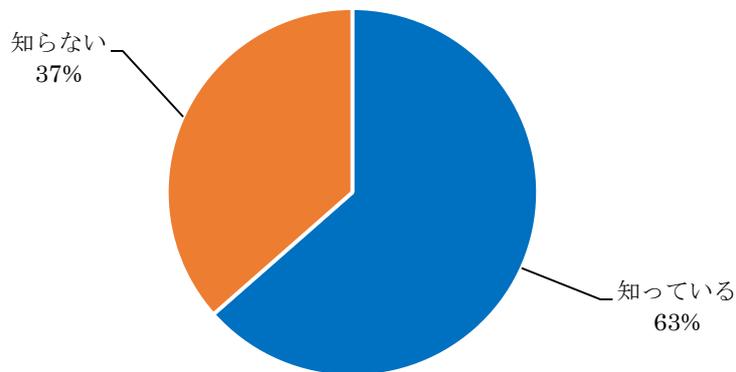


図4.5 カウンセリングを行っていることを知っているか

4.6 悩みごとがあったとき、カウンセリングを受けようと思いますか？

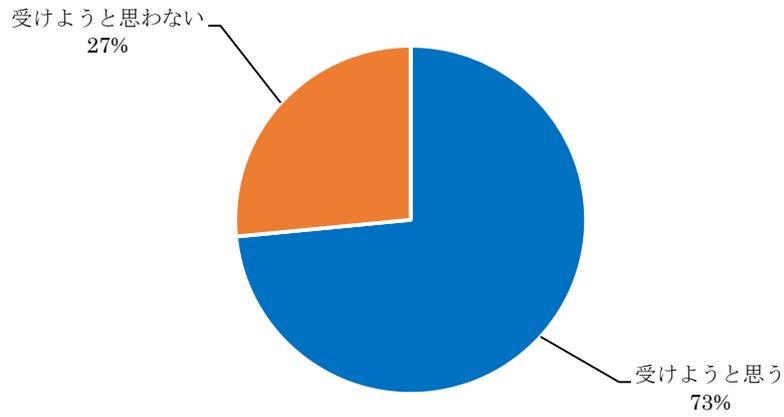


図4.5 カウンセリングを受けようと思うか

4.7 4.6 で「2. 受けようと思わない」と回答された方は、その理由を教えてください。

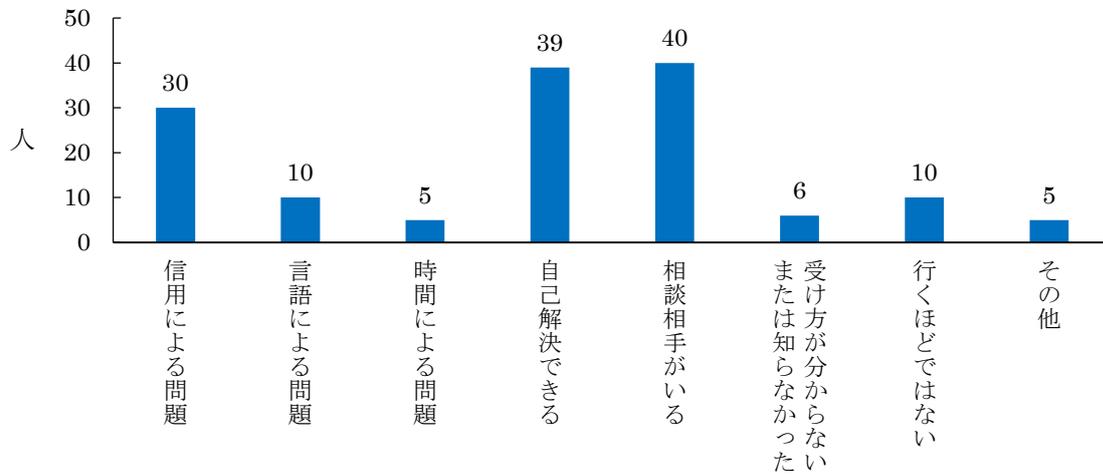


図4.7 受けようと思わない理由

4.8 学生定期健康診断が、毎年4月のみに行われていることを知っていますか？

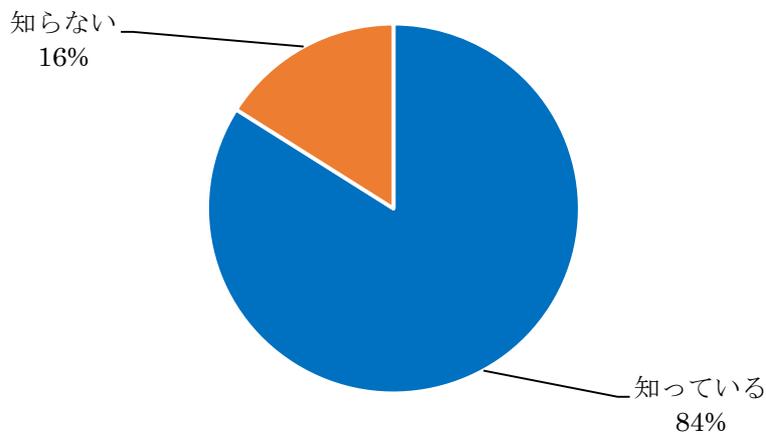


図4.8 健康診断を知っているか

4.9 学年度内(4月～3月)に健康診断を受けていなければ、健康診断証明書が発行されないことを知っていますか？

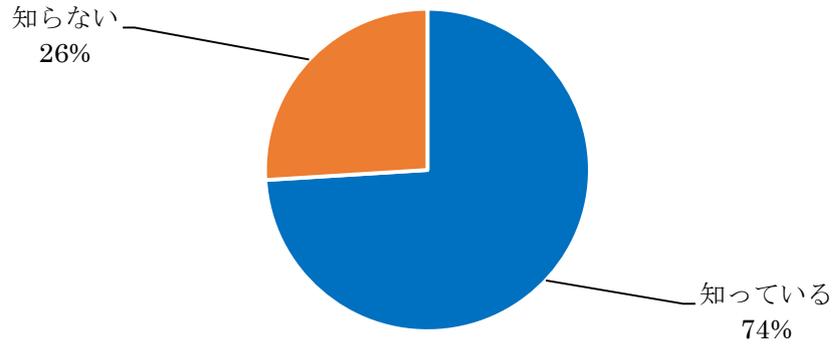


図4.9 健康診断証明書の発行を知っているか

4.10 あなたは日本の企業への就職を希望していますか？

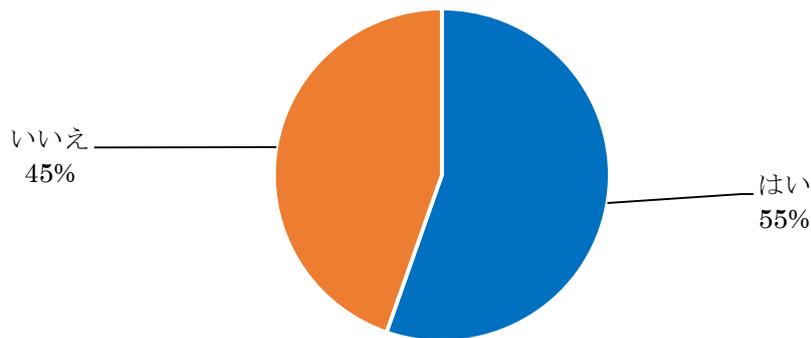


図4.10 日本企業への就職を希望するか

4.11 「はい」と回答した方は、就職活動のサポートで必要なことは何ですか。(複数回答可)

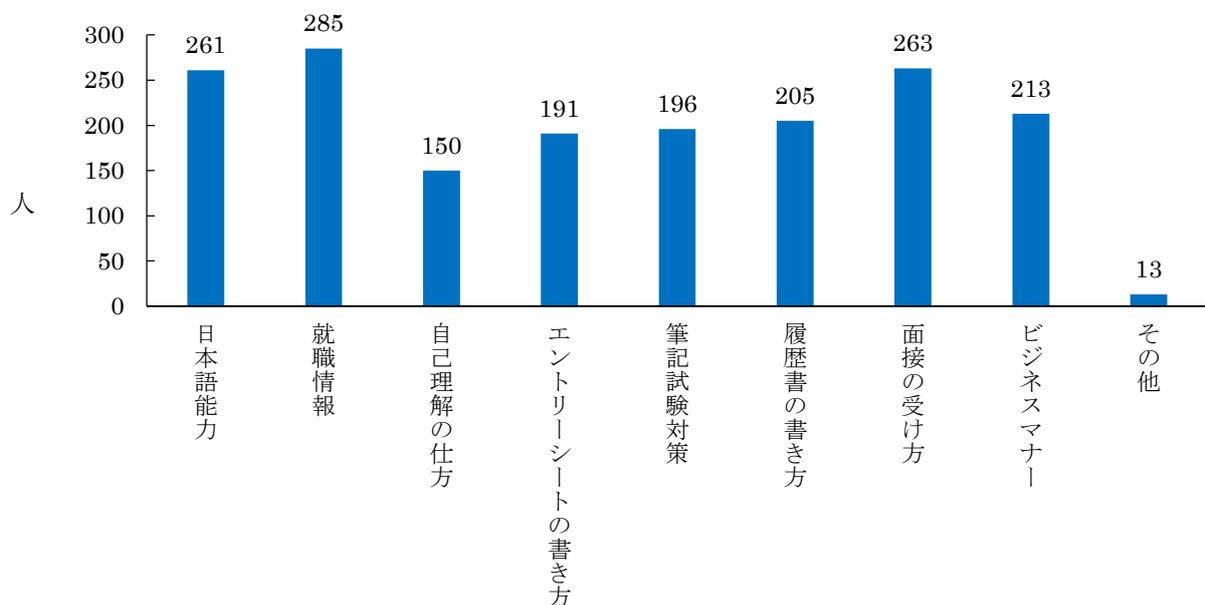


図4.11 就職活動のサポートで必要なこと

5. 広島大学における学習，生活に関する満足度

広島大学に関する以下の内容について、あてはまる回答の数字に○をしてください。

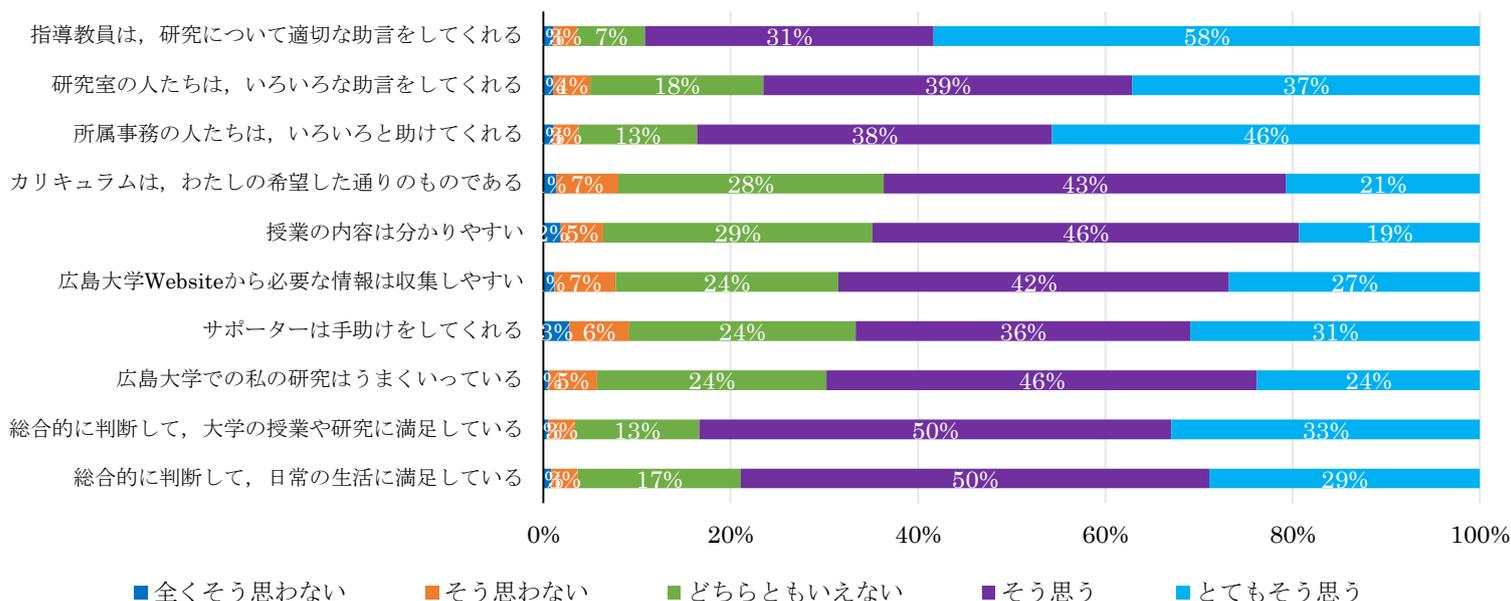


図5 広島大学における学習・生活に関する満足度

満足度について「全くそう思わない」(1点)から「とてもそう思う」(5点)で平均値を求めたところ、指導教員について最も満足度が高く、カリキュラムと授業の満足度は比較的低めである。以下に、留学生満足度の平均値経年比較を示す。

表 3. 留学生満足度の平均値経年比較

	2009	2010	2012	2013	2014
指導教員は、研究について適切な助言をしてくれる	4.47	4.39	4.46	4.40	4.43
研究室の人たちは、いろいろな助言をしてくれる	4.10	3.98	4.07	4.00	4.08
所属事務の人たちは、いろいろと助けてくれる	4.20	4.19	4.27	4.21	4.25
カリキュラムは、わたしの希望した通りのものである	3.90	3.69	3.80	3.73	3.75
授業の内容は分かりやすい	3.71	3.61	3.66	3.76	3.76
広島大学Websiteから必要な情報は収集しやすい	3.82	3.79	3.82	3.83	3.86
サポーターは手助けをしてくれる	3.93	3.79	3.86	3.88	3.86
広島大学での私の研究はうまくいっている	3.94	3.88	3.91	3.93	3.87
総合的に判断して、大学の授業や研究に満足している	4.13	4.00	4.13	4.11	4.12
総合的に判断して、日常生活に満足している	3.93	3.86	4.02	4.03	4.03

<自由記述>

*自由記述について

107名が回答。プライベートで個人が特定される内容や教員を名指しするものを省き、内容が重複するものは選抜して記載。

主な内容を以下にまとめる。

- ・奨学金や授業料免除が少ない不満、合否基準の不透明さについて
- ・アルバイトのために勉強時間が少ない
- ・就職活動のためのセミナーを開いてほしい
- ・研究・勉強スペースがほしい
- ・日本人と日本語で話す機会が少ない
- ・英語による情報をもっと提供してもらいたい
- ・大学の施設の不便さ
- ・実践的な日本語の授業がない
- ・指導教官からの指導不足